

# いろいろな生きものがくらす場所をさがしてみよう

## ■プログラムの概要

ねらい	生きものごとに合ったすみかがあり、校内にも多くの生きものが暮らしていることを知る。		
キーワード	いきもの、身近な自然		
対象	小学3年～中学1年		
時間	90分	実施場所	校内各所・教室
使用するもの	ワークシート、筆記具、クリップボード、付せん、パソコン、プロジェクター、スクリーン		
全体の流れ	<ol style="list-style-type: none"><li>1. どんな生きものがどんな場所にすんでいるの？</li><li>2. 「生きものの生息環境」という括りで、校内の環境について考えてみる。</li><li>3. 生きものの姿・痕跡を探しに行こう 校内をまわって、実際に探しに行く</li><li>4. 学校地図に見つけた生きもの・痕跡を描いてまとめよう</li><li>5. まとめ</li></ol>		

## ■進め方

時間	学習内容	指導上の留意点
5分	<あいさつ・流れの説明>	
10分	<どんな生きものがどんな場所にすんでいるの？> ①生きものが暮らせる環境とは	・校庭などで生きものがくらす場所をさがしだし、多様な生きものが、自然の状態で持続して暮らせる場所・空間は、どんな条件が必要なのか考える。
10分	<生きものがくらす場所を探そう> ①学校内にも生きものの棲みか・餌になりそうなものはある?! ②学校内で、生きものの棲みかになっていそうな場所はどんなところ? ③みんなからの目撃情報	・校庭だけでなく、建物の近くや屋上なども含め、校内という形で考えるように促す。
25分	<生きものの姿・痕跡を探しに行こう> ①探索範囲を決め、班ごとに担当場所へ生きもの、痕跡を探しに行く。 ②班で1人、シートに見つけた生きもの・場所・痕跡をメモしておく。	・危険がなければ、屋上・学校の裏など普段入ることのできない場所も使用するとよい ・児童が解らなかつた生きものを調べることができるように、図鑑等を教室においておくとよい
30分	<学校地図にまとめよう> ①見つけた生きもの・痕跡を付せんに入れて、学校地図に貼り付ける。 ②どんな所にどんな生きものがいたか、それはなぜなのか？クラスで話し合う。	・雨が当たる場所かあたらない場所か ・人間から見つかりやすいか、見つけにくいかな。
10分	<まとめ> 生きものごとに合ったすみかがあり、校内にも多くの生きものが暮らしていることを知る。	・今いない生きものを呼ぶ場合、どのような工夫をすればよいのか話し合ってもよい。

## ■使用するもの

物 品 名	数 量	備 考
拡大した学校地図	各クラス分	
付せん	4色を各1束	
生きもの図鑑	適宜	
筆記具	各自	
ワークシート	各班分	
パソコン	1台	
スクリーン	1台	
プロジェクター	1台	

## ■実施にあたって留意する点

- 本プログラムでは、ビオトープとして定義される生息空間のみを教材として扱うのではなく、学校や学校周辺にある生きもの生息空間を広く捉えるものとする。
- 事前学習で、校庭にいそうな生きものを調べておく。
- 事後授業で、学校に生きものを呼ぼう！ということで、目的に合わせたビオトープ作りを行ってもよい。
- 季節は春～秋が多く生きものを見つけることができ、適している。
- 学校ビオトープがある場合は、校内の他の場所といる生きものの違いを調べてみてよい。

